

博物館だより



No.134

平成30年1月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館新展示 注目の品レポート

この資料(お宝)

ココがみどころ、ココがツボ

Vol.20

リニューアル後の博物館は、町の「お宝」の魅力をこれまで以上に見やすく、分かりやすく発信できるようにになりました。以下、そんな当館がオススメする逸品をご紹介します。

●小宮豊隆資料「漱石コレクション」

津田清楓画「漱石山房図」

のちに「漱石山房」と称された夏目漱石邸へ頻繁に出入りした小宮は、明治44年のある日、青年画家・津田清楓を伴って山房を訪れます。芸術論への



▲上:山房図全景(昭和9[1934]年画)
下:山房の特色・芭蕉とベランダ(部分)

そんな思い出深い山房も、漱石没後は一時「九日会」が開かれるも閉鎖、昭和20年の空襲で焼失してしまいました。清楓は画家として大成後も師の漱石を敬慕し、山房図を幾つか描きましたが、本図はそのつととなるものです。

◆講座・教室催し物ガイド

歴史文化カレッジ「明治150年」

●日時 1月28日(日)13時～15時

●場所 博物館ホール・研修室

●内容 演奏会・文化講演会

①第一部「明治人が出逢った西洋音楽」
管弦楽演奏 育徳館高等学校管弦楽部

②第二部「郷土と明治―豊津を中心に―」
『明治と豊津―もつとの「坂の上の雲」』

当館学芸員
・塚利彦を通して見た明治(仮題)
育徳館高等学校校長 小正路 淑泰氏

●備考※定員(50名)有り先着順で切ります。
※参加費200円が必要です。

1月の歴史講座

【漢詩紀行講座】

1月6日(土)

9時30分～

【古文書講座】

1月7日(日)

10時00分～

【古典かな講座】

1月20日(土)

9時30分～

【みやこ学講座】

1月27日(土)

10時00分～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

11月の業務日誌から



▲子ども広場では勾玉づくりや火起こし体験が行われました

11月3日(金)、第6回豊前国府まつりが行われ、多くの来場者が訪れました。今年は開会式で「RUN伴+九州ファイア2017」豊津コースの出発式を行い、「地域みんなで支えるまつり」をPRしました。

11月23日(木)、友の会恒例「秋のバスハイク」ツアーで大分市を訪問しました。県立美術館でイサム・ノグチのアート、歴史資料館で大友府内城下の発掘成果展を見学し、大分の歴史と文化を堪能しました。

11月29・30日(水・木)、小宮豊隆資料のレプリカ作成用写真撮影が行われました。レプリカは現物保護のため、実物同様の精巧な複製品を造るもので、完成後は本物の「影武者」として活躍します。

11月30日(木)、育徳館中学校1年生120名が博物館の見学に訪れました。同校の先輩でもある小宮豊隆や、同校同窓会が所蔵する小笠原文庫の説明を聞き、母校の奥深い歴史に関心を深めてもらえたようです。



▲豊後国分寺のシンボル七重塔(模型)の前で記念撮影



▲先輩小宮豊隆についての説明を聞きメモを取る生徒たち



▲レプリカ用写真撮影の様子。細かいところまで入念に観察します

みやこの歴史発見伝 103

校庭から現れた弥生の村

犀川小学校校庭遺跡の発掘調査

「終戦直後の発掘」

「吉野ヶ里遺跡」は弥生時代を代表する九州の遺跡として有名ですが、この遺跡が調査される前は、静岡県内の「登呂遺跡」が、その代表とされ、長く歴史の教科書などに掲載されました。

この遺跡は、終戦直後の食糧・物資の乏しい中で調査され、日本の考古学史に残る遺跡として現在、国の特別史跡に指定されています。この登呂遺跡とほぼ同じ頃に本格的な調査が行われ、その後、この地域における考古学・歴史研究に大きな影響



▲犀川小学校校庭遺跡(左が校舎、下が体育館)



▲貯蔵庫跡の調査風景

を与えることになった遺跡がみやこ町にあったことをご存じでしょうか？

犀川小学校校庭遺跡

犀川小学校の校庭では、古くから雨が降った直後に、きれいな円形に乾くところがいくつもみられ、これを土俵にして相撲をとったという話も伝えられています。これは「ソイルマーク」とよばれる、地下にある土砂の乾燥状態の違いが色の濃淡として地表に現れる現象で、これを観察することによって地下にある遺跡を発見する事ができるた

め、考古学の分野では遺跡探索手段の一つとして用いられています。

この現象と併せて、校庭法面から土器などが出土することから、昭和二十四年(一九四九)二月、小倉高校の教諭であった田頭喬氏が試掘調査を行った結果、弥生時代の住居跡が発見されました。その二ヶ月後、九州考古学会及び福岡県歴史調査会が合同で本格的な調査を行いました。この調査では、二十基以上の穀物貯蔵庫の跡が発見され、調査には多くの見学者が訪れたといわれています。

六十八年ぶりの調査

その後、運動場の造成や盛土により「ソイルマーク」がみられなくなり、遺跡の存在も学校の遠い過去の記憶に留まることになりました。

最初の調査から六十八年後の昨年七月から学校再編事業に伴い、校舎建設予定地の犀川小学校校庭で、再びこの遺跡の発掘が行われることになりました。調査に先立ちグラウンドの土を剥すと、「土俵」のような円形の遺構が次々と出現しました。この「土俵」状の遺構こそ、六十八年前の調査で発見された穀物貯蔵庫の跡で、主にお米を蓄えていたものと思われます。貯蔵庫の中から各種の土器や、佐賀県伊万里市周辺でのみ採取さ



▲発掘体験の様子

れる黒曜石等の石で作られた鏃、石包丁や砥石のほか、石器の剣なども出土しました。石器の形などから、これらの貯蔵庫は約二〇〇〇年前につくられたものと考えられます。一部の土器には、貝殻を使って木の葉状の模様を施したものや、赤い顔料が丁寧に塗られたものも含まれていました。特に木の葉状の模様については北部九州から山口沿岸部に特徴的な分布がみられ、先の調査結果から犀川小学校校庭遺跡は、この模様の土器が出土する代表的な遺跡に位置付けられています。また、明治時代から昭和の初め頃の牛乳瓶やインク瓶等のほか、小型の硯なども出土しており、これらは児童が学習で使用したものと推測されます。

「歴史を掘り起こす」学習

今回の発掘では、校庭の地下から発見された遺跡を、自らの手で掘り起こすことにより、歴史を身近に感じながら、学校や地域に、より一層興味をもってもらうことを目的として「発掘体験」学習を実施しました。この学習には延べ七〇名の児童が参加し、移植ごてを手に「歴史を掘り起こす」体験をしました。参加した児童から「ソフトボールの練習をしていたグラウンドから、教科書でみた当時の土器や石器が出てきたことに驚いた。」「二度とできないような体験ができてうれしかった。」「石のヤジリで何を狩っていたの?」など様々な感想や質問が出され、校庭地下に刻まれた現在までの「学校の生立ち」の痕跡を掘り出す事によって自分の学校に対する誇りや郷土愛を育む事ができたのではないのでしょうか。

【井上信隆】



▲出土遺物(右側が学校関連遺物)